

杉並区立西田小学校 令和元年度第8回 学校運営協議会記録

- 日時 令和2年1月20日(月) 16時00分から18時30分
- 場所 図書室
- 出席者 諏訪会長
 - 【委員】鈴木校長、望月(司会)、中澤、恵羅、渡邊、目黒、半澤、檜枝(記録)
 - 【教育委員会】中曽根
 - 【事務局】新井副校長、濱元先生
- 配布資料 資料1 令和元年度第8回学校運営協議会次第
 - 資料2 グラフで見る小学生の異変
 - 資料3 令和元年度第7回学校運営協議会記録
 - 資料4 令和2年度特色ある学校づくり予算等提案書
 - 資料5 R1年度杉並区「教育調査」並びに「よりよい学校づくりアンケート」結果の考察
 - 資料6 令和2年度西田小グランドデザイン
 - 資料7 NISHITA 未来の学校：大人も子供も一緒に考えよう
 - 資料8 西田小学校同窓会報 Vol.23
 - 資料9 令和2年度年間行事予定表(案)

1 中学年教員との懇談

- 16時～16時25分に、委員が3・4年担任教員と懇談した。

2 会長挨拶

- 諏訪会長の著書「学校3.0XSDGs 時代を生き抜く教育への挑戦」が紹介された。
- 資料2に基づいて小学生の現状の説明があった。西田小は相対的には良いが、「小学生の異変」にどう対応すべきか検討する必要がある

3 校長挨拶

- 今年もよろしくとの挨拶があった。
- 昨年4月の着任以来スムーズに運営できている。
- 子どもの外遊びが減ってきているので、子どもたちと体育委員会に考えてもらっている。朝マラソンを提案している。
- ESDを今後も進めていきたい。

4 教育委員会挨拶

- 教育委員会はCS立ち上げ1年目は出席するが、2年目以降は原則出席しない。本日は久しぶりに出席した。
- 昨年12月の2019すぎなみ教育シンポジウムのテーマは「学校の棚卸し」。「学校の当たり前」を見直す機会があったら、皆さんも協力していただけますか?を呼び掛けた。

- ・ 大部分の学校に CS ができたので、CS は何のためにあるのかを振り返る時期になった。杉並区では、CS のやり方は学校ごとに自由に選べるので、それぞれの学校で工夫してほしい。より良い CS をモデルにして、教育長が言うところの一点突破全面展開の段階になった。
- ・ メンバー全員がフラットに議論する熟議型の CS を目指してほしい。
- ・ 子どもを取り巻く保護者、教員、地域の人々はみな子どもを大切に思っているが、その思いが十分統合されていない。CS はいろいろな立場の人が熟議できるので、統合する場として機能してほしい。

5 前回の会議録について

承認（資料 3）。

6 学校の特色ある教育内容について

- ・ 資料 4 に基づいて、新井副校長が西田英語村プロジェクトについて説明した。
教育委員会で 1 月 28 日にプレゼン予定。
西田英語村は本年度開始の西田小独自のプロジェクト。
良かったこと二点：①児童の英語に対する抵抗感が減った、②地域の人材が発掘できた。
実践を区内に発信して、一点突破全面展開していきたい。
来年度は、海外の子どもと文通することによるライティングを加える。
- ・ 鈴木校長から「習ったことをアウトプットできるようにしたい。自分の意思を人に伝えられるようにしたい」との発言があった。

<以下の意見があった>

- ・ 学校にお任せするだけでは英語をしゃべれるようにならないので、地域の方との話し合いが大切。
- ・ 英語で言えるのであれば、日本語ではもっとしっかり言えるようになってほしい。

7 令和元年度の教育調査の結果・考察について

- ・ 新井副校長から資料 5 の説明があった。
- ・ 鈴木校長から、「調査から大まかな傾向を把握して、来年度の学校経営に役立てたい。委員の皆さまから忌憚ないご意見を頂きたい」との発言があった。
- ・ 資料 5 の 8 頁「⑤学び残し、個に応じた指導」教員肯定率が 93%から 58%に低下。このようなマイナスの部分について CS がどのように対応するかの議論が必要。関連して以下の発言があった。
追加説明：回答 24 名の内訳、頑張っている 14 名、どちらでもない 10 名。どちらでもないが肯定率を下げている。
数値が激減した原因をもう少し深堀する必要がある。
学び残しが無いように、授業の中で一度でなく複数回学ぶ機会があると良い。
授業時間外の放課後や朝の時間を利用した複数回の学習の機会を設けてはどうか。
繰り返さないと基礎・基本が身につかない。学年統一で「すぎなみドリル」や宿題で対応しているが、時間の余裕がある中でじっくりと取り組めていない。
担任としての発想。算数は 3 コースに分けているが、結局同じことをしている。主体的・対話的ではないが、繰り返し学習によって算数のペーパーテストはできるようになる。

小学校では個別指導を主目的にしていないので、数値が低くなるのは当然。調査項目に入れないほうが良い。7頁②も同様。

7頁②「・・・個別の指導がある」の数値が低いのは、児童が授業内の個別指導を「個別指導と受け止めていない」ことの反映か？

- 特に数値の低い項目、7頁②、3頁24)、25)、は他校でも同じ傾向か、西田小が特別か。
⇒ 後日、教育委員会から比較可能な資料提供。
- ドリル的学習とプロジェクト的学習に大別すると、西田小はプロジェクト的学習に時間とエネルギーをかけている。その成果は主体的な学びで、例えば卒業式の発言は素晴らしい。半面、ドリル的学習は時間不足になる。主体的学びが習慣になれば、学び残しても中学校で追いつくはずである。限られた時間ですべてをするのは難しい。
- 小中連携に係る8頁④、⑨は極めて低い。6、3、3制で小学校と中学校は制度的に別なので、小中連携を実質化するには政策的な手当てが必要だ。現状はスローガンのみ。現場の努力では限界。調査項目に入れるべきでない。以下の関連発言があった。
少子化が進んだ地方では、生徒数が少なく小中校を併設して連携せざるを得ない状況がある。
実際に小中連携を担当したのものとして、小中の違いを痛感している。
異学年の教え合い・学び合いは西田小内で行われているのか。小学校内で十分できないことは、小中一貫の9学年制になっても進むとは思えない。小中連携に過度な期待はできない。
中学校は高校受験が控えているので、小学校とは文化が違う。過度の期待は無理。
練馬区立小中一貫教育校大泉桜学園では、可能な努力をして成果をあげつつある。
- 中学校で負の数が出てきて「数の概念ができていない」ために数学ができなくなってきた子がいた。このような場合は、ドリル的な学習に限界がある。関連発言。
杉六小の算数学習ボランティアの経験から、つまりしている内容な児童それぞれ違う。反復練習が不足している児童には反復練習、概念ができていない児童には概念の説明が必要。後者は1対1で時間をかけなければ効果は上がらない。このレベルは授業中に対応することは困難。地域の教育力を学校教育に取り込む仕組みができれば、対応可能になろう。
- 小学校でやることを減らす必要があろう。
- 教員の働き方改革も対応しなければならない。

以上の対応策として、鈴木校長から「令和2年度西田小グランドデザイン」(資料6)の説明があった。以下の意見あった。

- 朝活には同窓会が人的協力するが、前提として責任体制を確立してほしい。
- 毎年のクラス替え(①)は良いと思う。
- 専科担任性はどうか。

8 「未来の学校」について

- 新井副校長から資料7に基づいて説明があった。2月22日(土)に実施。
- 会長、渡邊委員、望月委員、新井、濱元でさらに検討。
- CS研修会とする。

9 その他 各委員から

- ・中澤委員から、西田小学校同窓会報 Vol.23 (資料8) が紹介された。また、HP 開設の案内があった。
- ・令和2年度年間行事予定表(案)(資料9) が配布された。

10 事務連絡 今後の予定と活動について

- ・ 1月 23日(木) 校内書初め展始め・ユニセフ募金
- ・ 1月 29日(水) 校内研究授業 2年生活科
- ・ 2月 5日(水) 小中合同研修会(3校で研究授業・公開)
- ・ 2月 13日(木) 教育課程(届)相談日
小中合同 小中いじめサミット
- ・ 2月 22日(土) ESD 子供報告会・未来の学校
- ・ 3月 3日(火) 教育課程(届)提出日
- ・ 3月 25日(水) 卒業式
- ・ 4月 6日(月) 入学式

<次回の予定>

2月21日(金) 16時30分~18時30分

内容 令和2年度 教育課程(届)、学校経営方針について